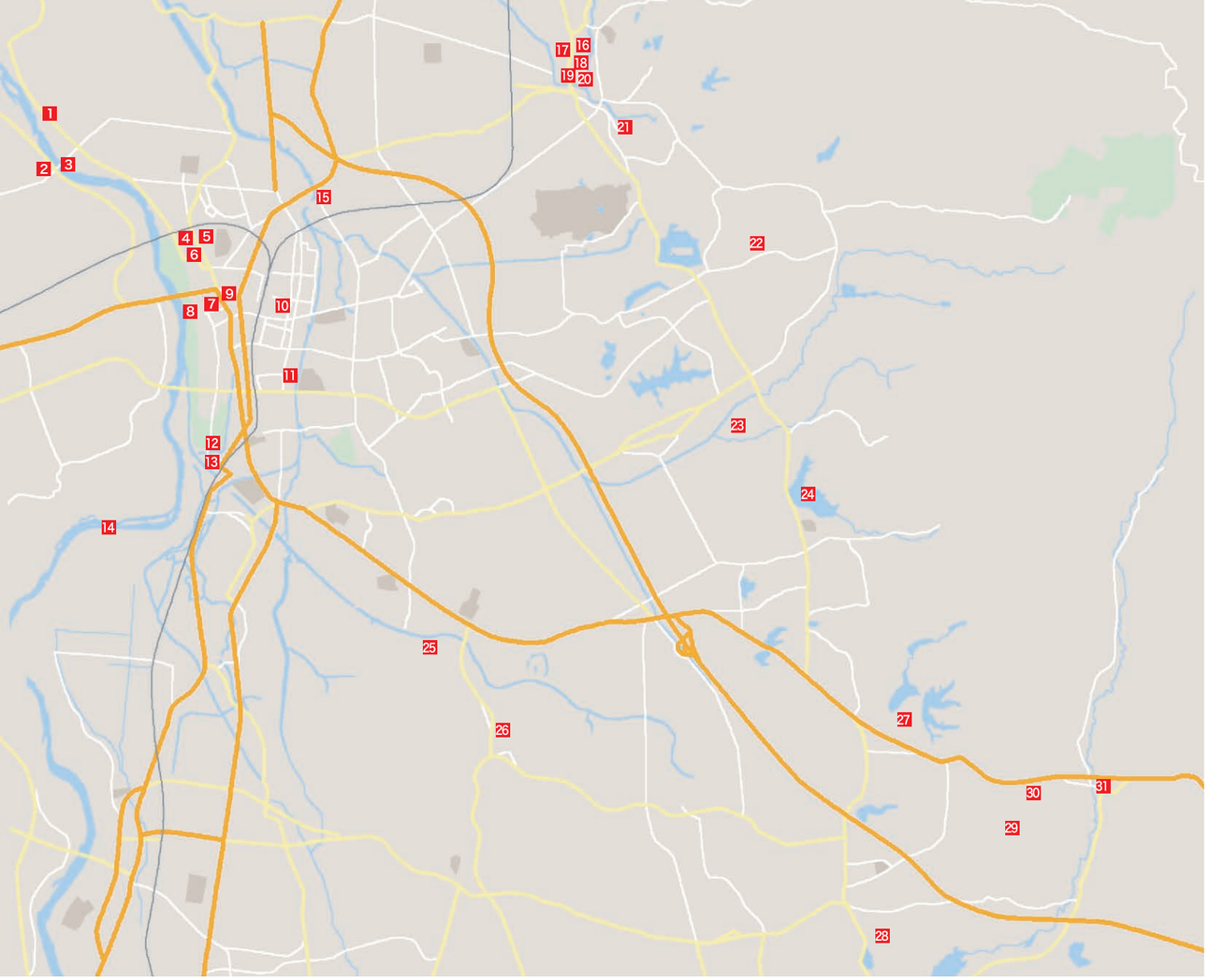

吉田松陰先生渡舟記念碑 1

嘉永5年(1852)3月3日東北巡遊中の吉田松陰が川を渡ったことを記念して、昭和15年(1940)赤堀の渡し跡付近に建立されました。

七面山道円寺 2

日蓮宗寺院。本尊十界曼荼羅。延宝年間(1673〜81)芦屋村(つがる市木造)に創立、あるいは天和元年(1681)の創立で日明開基とも伝えられます。「芦屋の七面様」とも称され、安産の神として知られます。数度焼失しましたが、その都度再建、明治13年(1880)現寺号を公称しました。

赤堀渡 3

岩木川下流部、現在の新津軽大橋付近、赤堀村(五所川原)と対岸の芦屋村(つがる市木造)を結ぶ渡場。貞享年間(1684〜88)藩命によって設置されました。明治13年(1880)の記録では、馬船1艘・小船1艘となっています。

光徳山玄光寺 4

真宗大谷派寺院。本尊阿弥陀如来。元禄3年(1690)玄西が五所川原村に創立した念仏道場が起源と伝えられます。正徳6年(1716)寺号を公称しました。

喰川山竜泉寺 5

曹洞宗寺院。本尊釈迦牟尼仏。月峰院(弘前)配下の湊村(五所川原)墓守堂を、元禄6年(1693)喰川村(五所川原)へ移転、竜泉庵として創建されました。開山は月峰院7世公範猷と伝えられますが、百翁全峰とする説もあります。慶応3年(1867)本堂新築、現山寺号を公称しました。明治18年(1885)焼失しましたが、同22年までに再建。昭和3年(1928)現在地へ移転しました。

隆光山法永寺 6

日蓮宗寺院。本尊十界曼荼羅。元禄2年(1689)柏原村(五所川原)の岡孫右衛門が勧請、本行寺八世日淳を開基として法永庵を創立と伝えられます。元禄12年(1699)寺号を公称しました。享保21年(1736)飛島五郎兵衛が本堂建立、昭和32年(1957)現在地へ移転しました。

千立山願昌寺 7

浄土宗寺院。本尊阿弥陀如来。元禄5年(1692)喰川村(五所川原)に大泉寺(五所川原)末庵として願心庵(浄土庵)建立、同村の願心を入寺させました。明治30年(1897)正覚寺(青森市)内の願昌寺の山寺号を移して現在に至ります。

五所川原渡 8

岩木川下流部、現在の乾橋付近、柏原村(五所川原)と対岸の鶯坂村(つがる市柏)を結ぶ渡場。明治13年(1880)の記録では、幅70間(127m)・馬船1艘となっています。明治17年(1884)乾橋架橋に伴って廃止されました。

太宰が過ごした蔵 9

作家太宰治が慕った叔母きゑ宅跡。幼少時に寝泊まりした蔵は、中心市街地区画整備事業により解体されましたが、跡地に標示板が建立されています。

布嘉御殿跡 10

「布嘉」は、五所川原の豪商佐々木嘉太郎の屋号です。呉服商から財を成し、多くの田畑を所有する大地主へと成長しました。贅を尽くした内外装から「布嘉御殿」とも称された和洋折衷の大邸宅は、堀江佐吉の手により明治29年(1896)竣工しましたが、昭和19年(1944)五所川原大火により焼失しました。商都五所川原歴史館「布嘉館」で、1/10模型が公開されています。

五所川原神明宮 11

祭神天照大神。寛文4年(1664)喰川村・平井村・柏原村・五所川原村4ヶ村が、喰川村に八幡宮を建立。安永5年(1776)広田組の祈願所となり、安政2年(1855)神明宮に改めたと伝えられます。昭和40年(1965)下り枝へ移転、平成10年(1998)現在地に移転しました。

五所川原市歴史民俗資料館 12

国重要文化財「旧平山家住宅」に隣接して、昭和58年(1983)開館。旧平山家資料を中心とした歴史資料、観音林遺跡・五所川原須恵器窯跡の出土遺物などの考古資料、戦前・戦後の農耕具を中心とした民俗資料、野沢如洋・和田山蘭ほか美術文学資料を展示しています。TEL0173-35-2111(五所川原市社会教育課)

旧平山家住宅[国重文] 13

広田組代官所手代や堰奉行・大庄屋などを務めた郷士豪農平山家の旧宅。明和6年(1769)ころ建築の主屋を中心に、離れ・土蔵・前屋敷が残されています。天保年間(1830〜43)建設の表門は、功労によりとくに許可されたものと伝えられます。

湊 14

岩木川中流部の湊村(五所川原)にあった河港。岩木川と十川の合流点に位置し、正保2年(1645)湊村の成立前後に備されたと考えられます。弘前藩の御蔵も置かれていました。

尻無渡 15

現在の十川橋付近、旧十川左岸平井村(五所川原)と右岸太刀打村支村尻無(五所川原)を結ぶ渡場。明治13年(1880)の記録では、馬船1艘となっています。

大伊山長円寺 16

曹洞宗寺院。本尊釈迦牟尼仏。寛文7年(1667)長勝寺14世聖眼雲祝を勧請開山として建立と伝えられます。沈鐘伝説で著名な正徳6年(1716)銘の梵鐘は、県重宝に指定されています。また本尊は慈覚大師円仁の作と伝えられ、胎内仏を有していましたが、平成6年(1994)本堂とともに焼失しました。本堂は平成8年(1996)再建されました。

■長円寺梵鐘[県重宝]

正徳6年(1716)銘の梵鐘。江戸中期の青銅製梵鐘としては県内唯一のものです。京都三条釜座の名工近藤丹波勝久による鋳造で、本来は長円寺の鐘が雄鐘、長勝寺(弘前)の鐘が雌鐘として、対で制作されたものと伝えられます。十三湖で運搬船が転覆し、両鐘ともに沈みましたが、雄鐘のみが引き上げられ長円寺に納められました。雄鐘を突くたびに、十三湖底の雌鐘が呼応するという、いわゆる沈鐘伝説が今に伝えられています。

清涼山大泉寺 17

浄土宗寺院。本尊阿弥陀如来。建保3年(1215)金光上人が創立、明暦元年(1655)貞昌寺(弘前)7世頓譽上人開基、南部出身の青天和尚が飯詰村(五所川原)に開山と伝えられます。当初の山号は法明山とされますが、改称の経緯については未詳です。

光明山法林寺 18

真宗大谷派寺院。本尊阿弥陀仏。寛文12年(1672)了意が法源寺(弘前)念仏道場として飯詰村(五所川原)に創立、延宝2年(1674)2世了誓が開基となり、同8年(1674)寺号を授けられました。天保4年(1833)の大凶作に際し、10世顕道は実家である京都浄慶寺より150両を無心して難民を救ったと伝えられます。

飯詰城跡 19

梵珠山西麓、糠塚川左岸の舌状丘陵先端部に立地する中世城館。「高楯城」とも称されます。藤崎と小泊を結ぶ下之切道、外浜地方へ連絡する山越え道の結節点に位置します。3つの郭から構成され、法面には階段状の帯郭も認められます。

15〜16世紀を中心とする陶磁器が採集されていることから、城館の最盛期は室町時代後期と考えられます。城主は浪岡北畠方の朝日左衛門尉、浪岡城落城の10年後、天正16年(1588)大浦為信の攻略により落城したと伝えられます。

飯詰八幡宮 20

祭神誉田別尊・天照皇大神・軻遇突智神。弘治元年(1555)飯詰村支村大房村の館主樺沢国右衛門、あるいは飯詰高楯城主朝日行安の勧請による創建と伝えられます。寛保年間(1741〜44)飯詰本村、宝暦元年(1751)愛宕宮境内へ遷座し、安永3年(1774)飯詰組祈願所となりました。天保15年(1844)護穀神堂へ移転、明治3年(1870)には愛宕宮へ合祀となりましたが、翌年愛宕宮を八幡宮と改称し現在に至っています。

■飯詰八幡宮本殿[県重宝]

宝暦元年(1751)建造と伝えられます。小規模ながらも、均整の取れた社殿で、彫刻など各所に優れた手法が見られます。

高楯山妙龍寺 21

日蓮宗寺院。本尊十界曼荼羅。飯詰高楯城跡に所在します。飯詰高楯城主朝日行安が七面大明神を勧請、寛永2年(1625)跡地に正行庵が建立されるも、同13年(1636)小泊村(中泊町小泊)へ移転、法広山正行寺となりました。寛文年間(1661〜73)普明院が飯詰桜田に法布山正行寺建立、宝暦11年(1761)光順院日逞が現在地に正行庵創立、その後興廃を繰り返しながらも昭和22年(1947)妙龍寺を公称し、現在に至ります。

■妙龍寺七面大明神宮殿

精緻な細工がなされた建築型厨子。一部改装されているものの、基本的には宝暦年間(1751〜63)ころの造作と推定されています。

長者森館跡(長者森山遺跡) 22

松野木集落北方の独立丘陵に立地する城館。複数の郭や堀切・土塁・横堀が認められますが、館主・築城時期等については不詳です。平安時代の土師器が出土していることから、古代防御性集落の可能性もあります。

観音林遺跡 23

松野木川左岸の舌状台地上に立地する縄文集落。五所川原市教育委員会の調査により、縄文〜中世にわたる多量の遺物が出土しました。

なかでも縄文晩期の亀ヶ岡式土器が多数を占め、壷形・鉢形・片口・ミニチュア土器ほかが出土しました。また、簡略化された便化土偶がまとまって見つかっているほか、膝を抱え込むような状態で座る屈折土偶、全国的にも大変珍しい完形の岩偶も発見されています。平安時代の環壕集落跡や中世陶磁器も見つかっており、各時期を通じて利用されてきたことが判明しています。

長橋溜池 24

梵珠山地西麓に位置する溜池。面積32.5ha・有効貯水量136万7,600■・灌漑面積316.1ha。慶長年間(1596〜1615)築造とも伝えられますが、俵元新田が成立する宝永年間(1704〜11)ころ築造されたものと考えられます。

円通山専念寺 25

浄土宗寺院。本尊阿弥陀如来。万治元年(1658)水戸出身の円通清南が広田村(五所川原)に開基、あるいは貞昌寺(弘前)8世良教上人開基、清玄和尚開山とも伝えられます。

法雲山教円寺 26

真宗大谷派寺院。本尊阿弥陀如来。板屋野木村正休寺の周哲が、延宝4年(1676)梅田村(五所川原)に創立した念仏道場が起源と伝えられます。

■教円寺のイチョウ

樹齢350年・樹高26m・幹周5.4m。延宝4年(1676)教円寺創立時に植えられたものと伝えられます。イチョウとしては五所川原市最大で、市の名木・古木に指定されています。

原子城跡 27

原子溜池南方、八幡宮境内に広がる中世城館。空堀で区画された3つの郭から構成され、一部に土塁も認められます。発掘調査などにより、15〜16世紀を主体とする陶磁器が出土したことから、室町時代後期の城館と考えられます。城主は、浪岡北畠氏の家臣原子平内兵衛、浪岡城落城と同年、天正6年(1578)大浦為信に攻められ落城したと伝えられます。

持子沢館跡 28

前田野目川左岸の丘陵先端部に立地する中世城館。「高野館」「_館」とも称されます。空堀で区画された6つの郭から構成され、一部にテラス状の帯郭も認められます。館主・築城時期などについては不明ですが、平安時代の土師器・須恵器も出土していることから、本遺跡の成立は古代に遡ると考えられます。

五所川原須恵器窯跡[国史跡] 29

梵珠山南麓、前田野目川水系の丘陵上に分布する平安時代の須恵器窯跡群。昭和43年(1968)はじめて発見され、立正大学坂詰秀一・弘前大学村越潔らの調査により、「最北の須恵器窯跡」として脚光を浴びました。その後五所川原市教育委員会の調査により、9世紀末葉から10世紀後葉にかけての窯跡が、約40ヶ所確認されています。燃料となる樹木を求めて、低所の高野地区から、持子沢地区を経て、高所の前田野目地区へと、前田野目川を遡上するように窯を移していったと考えられています。平成16年(2004)一部の窯跡が国史跡に指定されました。

楠美家住宅 30

高野地区で製材業を営んだ楠美家旧宅。明治25年(1892)頃秋田から取り寄せた材木で建築されたと伝えられます。茅葺寄棟屋根の大型民家で、小屋組に秋田地方の特徴がみられるため、秋田の大工が建てたものと推定されています。

松倉神社 31

祭神大山祇神・少彦名命・大名持命。明治6年(1873)神仏分離により松倉観音堂より松倉神社に改称、現在に至っています。

■松倉観音堂

津軽三十三観音第25番札所。本尊馬頭観音。梵珠山(標高468m)中腹の岩上にあり、創建については、延暦20年(801)坂上田村麻呂、あるいは承元4年(1210)金光上人創始の二説が伝えられています。明治6年(1873)神仏分離により松倉神社に改称、後に観音堂が再建されました。